



## 研究室紹介

### 文学部 文化財学科

OKOCHI Tomoyuki

#### 大河内 智之 准教授

奈良県生まれ。龍谷大学文学部史学科仏教史学専攻課程卒業、同帝塚山大学大学院人文科学研究科日本伝統文化専攻博士前期課程修了、本学にて博士号を取得。和歌山県立博物館主任学芸員を経て、2022年本学着任。著書に『仏像と神像へのまなざしー守り伝える人々のいとなみー』（編著、和歌山県立博物館、2019年）ほかがある。

### 仏像から地域の歴史を見つめる

祈りの対象として善美を尽くして造像された仏像は、時代を超えて多くの人々を惹きつけます。私の主たる研究テーマは日本彫刻史という分野で、仏像や神像、仮面などについて、美術史的手法により分析し、いつ、だれが、何のために作り、そしてどのようにして伝えられてきたのかを、さまざまな史料も駆使しながら明らかにしています。

仏像は大寺院にも、集落の小堂にも多数伝わり、地域を結合する象徴的存在として信仰の力で大切に守られてきました。それゆえに長く継承されやすい文化財といえます。そうした特性を踏まえ、仏像を通じて地域の歴史を探求する研究を進めています。他にも仏像の防犯に関する研究や、熊野信仰・高野山信仰研究、奈良仏師研究など興味は尽きません。

### 仏像大好き少年から学芸員へ

小さいころから仏像が大好きで、仏像の写真が掲載された図録や全集を眺め、あちこちの寺院や博物館を巡って仏像を拝観していました。高校生になると、仏像を展示する博物館で働きたいと思うようになり、学芸員資格を取れる大学を選びました。学芸員になりたいという強い思いをモチベーションにして、室町時代の奈良仏師をテーマに卒業論文を書き上げると、大学院に進学して美術史を学びながら研究の道へと進み、思いが実り和歌山県立博物館で学芸員としてたくさんの展覧会を開催しました。みなさんもやりたいことが見つければ、初志貫徹、一生懸命に挑み続けてほしいと思います。

### 奈良大学文化財学科で学ぶ

文化財学科では考古学、史料学、保存科学、そして美術史学の4つの分野の専門的な知識や情報、考え方、研究手法を学ぶことができます。多くの分野の情報をまんべんなく学びつつ、3年から専攻分野を絞り卒業論文のための研究を行います。文化財を残し、伝え、活用するためにはこうした幅広い視野で対象を見つめていくまなざしが必ず必要です。日本で最初に設立された本学文化財学科からは、膨大な数の卒業生が専門職として日本中で活躍しています。実践的な本学科のカリキュラムを通じて、文化財の魅力を知り、文化財を守り伝える方法を学んでほしいと思います。

### ゼミ生からみた先生

4年生 小野寺 大耀さん

大河内先生はとても気さくで、学生との距離が近く、熱意をもって向き合ってください先生です。いつもは穏やかですが、文化財の説明になると途端に目つきが鋭くなり、言葉の重みが増します。盗難に遭い、現在は右手のみが残る新薬師寺の「銅造薬師如来立像（香薬師）」を前にした時、文化財防犯の専門家でもある先生のやり場のない怒りを感じ、私も文化財を守り継承したいと文化財専門職を志すようになりました。仏像や刀剣などの工芸品に興味がある方はぜひ大河内先生の部屋を訪ねてください！



奈良大学  
NARA UNIVERSITY

ならぶ  
Na Love

Nara University Bulletin Vol.193

ならぶ Vol.193 ●発行：令和5年6月 ●発行：奈良大学 〒631-8502 奈良市山内町1500 TEL. 0742-44-1251(代) URL <https://www.nara-u.ac.jp/> E-mail [kounou@sogakunara-u.ac.jp](mailto:kounou@sogakunara-u.ac.jp) ●編集：奈良大学広報室







## 国文学科 新入生研修 薬師寺訪問

去る4月18日、国文学科の新入生は新入生研修で薬師寺を訪れ、親睦を深めるとともに、学外での学びを得ることができました。

まず僧侶のユーモラスな講話を拝聴。華やかな奈良の都の歴史と、薬師寺の建物、仏像について教わりました。講話の最後、僧侶の「自分の心の持ちようで人生は変わる。人にゆだねず、辛い時こそ顔をあげて自分自身が楽しみながら人生を過ごすことが大切だ」という言葉に、一同真剣に聞き入っていました。

その後はクラスごとに、数多く並ぶ国宝や建造物、また奈良大学の前身である「南都正強中学」のあった建物を見学しました。ガラスを隔てず、目の前にある文化財や、奈良時代の石碑に刻まれた漢字を見ながら、平仮名・片仮名が発明される以前の文化についての解説を熱心に聞き、「奈良で学ぶ」ことの意義について実感しました。



## 地理学科 新入生研修 ミニ巡検

地理学科の1年生は新入生研修としてミニ巡検に参加しました。5月5日には人文系の教員、5月12日には自然系の教員が引率し、少人数のグループで学内とその近辺を散策しました。

あるグループは本学の正面玄関が奈良盆地と京都盆地の分水界となっていることを歩きながら実感し、裏門付近のため池と田地の変化について、また秋篠川を眺めながら地域の自然と歴史・文化との交わりに関する説明を聞きました。またあるグループは、学内の眺望スポットから周辺自然環境を概観した後、学内に設置された百葉箱や測量の基準点をまわり、地理学的な調査方法や分析手法の説明を聞きました。学生同士、お互いに出身地やクラブ活動の話で親睦を深めながら散策を楽しんだ1日となりました。

## 史学科 必修科目 史学研究法

前期授業が始まってさっそくの4月10日、史学科に入学した新入生は必修科目「史学研究法」の授業を受けました。授業では、史学科に所属する先生全員から、自己紹介や専門分野についての説明がありました。また、4年生までの学習の流れなどについて説明を受け、皆一生懸命メモを取っていました。先生から「大学での勉強は先生に言われたことをまず疑うことから始まる」との話を聞いて、高校生までの勉強とは全く異なるこれからの大学生活に戸惑いつつも、楽しみにしている様子の新入生たちでした。5月14日には史学科の全員が所属する「史学会」主催の姫路・元町ツアーが行われ、新入生を含む20人が参加しました。



授業風景



姫路・元町ツアー

## 文化財学科 新入生研修 現地現物主義

文化財学科の新入生は4月7日、新入生研修で薬師寺、唐招提寺を訪れました。あいにくの雨模様でしたが、創建当時の面影を色濃く残す薬師寺の回廊で、同学科の大河内智之准教授による解説を聴講。本尊「薬師如来坐像」を日本だけでなくアジア全体の視点から見る方法についてなど、ホンモノを前にしての講義を受け、敷地内にある奈良大学の前身「南都正強中学」の跡地を見学しました。その後唐招提寺に移動し、8世紀に創建された金堂やすばらしい仏像、平城京にあった東朝集殿を移築した講堂などの国宝や重要文化財に囲まれ、文化財学科のモットーである「現地現物主義」を体験しました。



## Contents

- |           |           |                   |                               |
|-----------|-----------|-------------------|-------------------------------|
| 1 新入生特集   | 7 クローズアップ | 11 通信教育部生便り       | 13 インフォメーション                  |
| 4 活躍する卒業生 | 9 トピックス   | 12 オープンキャンパス・入試日程 | 15 研究室紹介 文学部 文化財学科 大河内 智之 准教授 |





## 必修科目 心理学科 社交不安(交流することへの不安) にあっかんべーダ!

去る5月、コロナ明けで社交に不安を抱えるシャイな心理学科の新入生たちが対人関係へのポジティブなイメージ形成に非常に有用な芸術療法を体験しました。「人とつながりたいけど、その間合いやタイミング、なによりスキルが未熟」というコロナ明けの若者は、学生に限らず少なくありません。そんな学生たちの社交不安を軽減するために音声言語ではなく非言語で表現し認め合える芸術療法は、比較や評価を気にすることなく作品を通じてお互いの「Only1!」を認め合える良い機会を提供してくれました。特別講師の院南先生のギターやサクソ演奏による巧みな導入によりリラックスした学生たちは、ベダ星(架空の星)に住むベダ(個々の心象風景)を、石粉粘土の造形による探索と、発見したベダへの着色に無心で取り組みました。そしてお互いのベダ(作品)の鑑賞を通じて、違いを認め合いながらいつの間にかコミュニケーションの輪が広がっていきました。

## 総合社会 学科 新入生研修 「バンビヤス奈良」の ホームゲームを観戦

総合社会学科の1年生は4月16日に行われた新入生研修で、社会連携の一環として「バンビヤス奈良」のバスケットボールの試合観戦に参加しました。同チームはバスケットボールプロリーグ「B.LEAGUE」に所属し、奈良を本拠地としています。この日は、奈良市法蓮にある「ロートアリーナ奈良」を会場としたリーグ残留を懸けたホームゲーム最終戦で、非常に盛り上がりました。総合社会学科は大学での学びと学外での学びをつなげる「社会連携」を重視しており、特に2023年度は県内のプロスポーツ団体との連携を深めるプロジェクトを実施する予定です。参加した新入生は皆で地元・奈良のチームを応援しながら親睦を図ると同時に、総合社会学科における「社会連携」の一端を体験しました。



## ■ 活躍する卒業生①

# モンゴル国営テレビ局の 取材を受けました

4月21日にモンゴル国営テレビ局の取材で、  
本学の浅川正美理事長、今津節生学長、社会学部総合社会学科の  
正司哲朗教授がインタビューを受けました。

この度モンゴル国営テレビ局の記念番組として本学の特集が企画され、メンドバザル・オユントルガ氏(本学出身、大学院博士課程修了)がインタビュアーを務められました。この番組では本学とモンゴル国との友好関係や、今津学長との共同研究の成果、また正司教授によるモンゴル帝国時代の遺跡デジタルアーカイブなどの研究内容が紹介される予定です。本学とモンゴル国は考古学や保存科学などの分野で密接な連携を築いており、今後も交流を図り、協力関係を深めていくことが約束されました。



左:オユントルガ氏、右:今津節生学長

2008年から本学は、モンゴル国立文化遺産センター、国立科学アカデミー考古学研究所と共同研究を行ってきました。現モンゴル文化庁文化遺産センター保存科学研究室長であるオユントルガ氏は、本学大学院にて今津学長の下で保存科学をテーマに研究され、博士号を取得されました。その際に学ばれた文化財の保存科学技術が、現在のモンゴルの考古学など多くの文化財研究の分野で活用されています。





# 卒業生 × 在校生 座談会

空間情報コンサルタント会社のアジア航測株式会社に勤めている3名の卒業生、技術部門の都竹楓さん(地理学科 2019年卒)、管理部門の福井薫さん(国文学科 2021年卒)、営業部門の宮谷純平さん(史学科 2021年卒)による座談会を行いました。それぞれがどのような経緯でアジア航測に入社したのか、大学での学びがどのように生きているか、仕事の内容やつらい時の乗り越え方などについて語っていただきました。また同社の内定者である地理学科の4年生、須藤大晴さん、後藤翔太さんにも参加いただきました。



国文学科卒  
福井 薫さん

史学科卒  
宮谷 純平さん

地理学科卒  
都竹 楓さん

## 一まずは今アジア航測でどんなお仕事をされているかお話しください。

**都竹さん:** 私はGISソフトなどを使用して、まちづくりや再生エネルギーなどに関する様々な分野の地図のデータ作成や地図データを使った解析などを行っています。  
**福井さん:** 私は経営管理部門で主に人事関係の仕事をしています。ワークライフバランスに配慮した職場環境づくりに関わっています。

**宮谷さん:** 北関東支店(群馬県前橋市)で、主に営業職として群馬県・栃木県の自治体を担当し、行政支援など幅広い事業の提案営業を行っています。

## 一アジア航測といえば地理学科生の就職先というイメージですが、御社に就職されたきっかけを教えてください。

**都竹さん:** キャリアセンターや学科の先生方から測量系の会社を紹介していただき、この業界に興味を持ちました。大学で開催したGIS DAYというイベントや就活等で測量業界に就職された奈良大出身の先輩方とお話する中で、アジア航測の社風に魅力を感じ入社を決めました。  
**福井さん:** 私は学内の合同企業説明会がきっかけでした。当時、自分が何に向いているかわからずハウスメーカーやホテ

ル、医療機器など色々な業種を受けました。コロナの影響を受けた初年度だったのですが、なるべく対面での説明会や面接がある会社を選び、仕事をする上で求められていること、自分の「推しポイント」を組み合わせて面接に臨みました。失うものはなかったため攻めの姿勢を貫きました(笑)。複数内定をいただき、その中から、自分がやりたいことを大事にできそうな会社を選びました。今の上司は学内合同企業説明会で説明をしてくださった方で、大変お世話になっています。その上司と一緒に働きたいと思ったこともこの会社を選んだ理由の一つです。

**宮谷さん:** 私は史学科で、歴史地理分野も踏まえた研究をしていたため地理にも興味があり、その中で特にアジア航測が特許を取得している赤色立体地図に魅かれました。また、営業職として様々な面で自治体の街づくりに関われることに魅力を感じました。また文化会本部のOBがいることも心強かったです。

## 一大学での学びが役に立っている点について教えてください。

**都竹さん:** 地理学科でいろんな分野の先生から教わったことが役に立っていると感じます。資格取得や仕事で新しい分

野に挑戦するときなど、授業で学んだことに絡めて興味をもつことができました。特にGISは大学の授業でも扱ったことがあったので、苦手意識なく取り組みました。

**福井さん:** 仕事をする中で、文書作成することがありますが、大学時代に国文学科の光石先生から教わった、誰もが分かりやすい文章を書くということがベースになっています。光石先生には課題においてわからなくても、とにかく何か書いて出すように指導されました。できなくても何かしらやってみようという考えを仕事においても大切にしています。

**宮谷さん:** 河内ゼミに所属していましたが、外岡教授にもご指導頂きました。奈良大学では他ゼミ、他学科との交流の機会が多く、様々な分野の先生にアドバイスを頂けたのが良かったです。また私は課外活動にも積極的に取り組みました。書道部で部長を1年務めており、課題解決力は部長時代に身に付いたと感じます。例えば学祭で展示を多くの方に見て頂くためにレイアウトや作品の並べ方を部員と話し合い、工夫した経験は課題解決力を養う良い機会となり今でも多くの場面で役に立っています。また文化会本部では副会長として様々な人と交流したことや、コロナ禍での新しい課外活動の形を大学側と作り上げたことも

良い経験です。

## 一奈良大学でよかったことは？

**都竹さん:** 地理学科は、他学科に比べてゼミが少人数で先生とも距離が近かったところが良かったです。他ゼミの先生の課外活動にも参加したことがあり、興味があることを突き詰める機会が多くあったように感じます。また、オープンキャンパスや学会などのイベントに参加したり、部活に所属することで学科や学年を超えた交流もでき、自分の世界を広げられました。

**福井さん:** 教授と関係性が築けたことが一番良かったです。卒業してからも会いに行けるので、帰れる場所があるという安心感があります。

**宮谷さん:** 私にとってH棟(クラブ棟)で過ごした時間が貴重な経験でした。部活や文化会本部など、1日の半分はH棟にいたと言っても過言ではないですね。書道部の部長として、また文化会本部の副会長として部の運営はもちろん、事務処理や後輩の面倒を見るのに忙しかったです。もちろん学業にもしっかりと励みしました。

## 一オフの日は何をしていますか？

**都竹さん:** 会社の先輩や同期とプライベートで遊びや食事に行ったり、家でゆっくりしたり出かけたりしています。

**福井さん:** 私は整体に行ったり、遊びに行ったりしますね。急に友達と旅行に行くこともあります。金曜の晩に残業して、そのまま友達と出かけたりします。仕事が忙しくて、遊びの予定を立てるのを躊躇することもあります。若い時にしかできない遊びを楽しんでいます(笑)

**宮谷さん:** 私は歩いたり本を読んだりしています。社会人になってから運動の機会が減ったため走ったりもしますね。私は参加していないですが、弊社にはバスケットやフットサル、野球のクラブチームがあります。

## 一心が折れそうになったことは？またその乗り越え方は？

**都竹さん:** 繁忙期にはたまにあります。そんな時は全力で趣味に没頭してリフレッシュしたり、部署の先輩方に相談に乗ってもらったりしています。入社当時は繁忙期の忙しさに戸惑うこともありましたが、年々自分なりの対処方法を見つけて、乗り越えるたびに成長ややりがいを感じています。

**福井さん:** 同期に比べて事務作業ばかりで、経験値が稼げていないという焦りから心が折れそうになったことがありますが、その悩みを上司に相談したことで、自分がやっている作業の大切さを実感し、考えが変わった瞬間に、より一層仕事への熱意が芽生えました。今は1年目の数百倍頑張っています。仕事で困ったときは上司に相談するようにしています。

**宮谷さん:** お客様にあまり良い提案ができずに行き詰まる時もあります。ですが、お客様が何を求めているのか、自分の提案はどこが良くなかったのかを踏まえて課題を一回持ち帰って提案を練り直して再度提案に行っています。失敗を次につなげるように心掛けています。

## 一アジア航測の良いところは？

**都竹さん:** 私の配属部署は風通しが良く明るい雰囲気です。同じ部署内でも業務内容が様々なので、自分の業務で行き詰まったときなどは積極的に周りの先輩方に相談してアイデアをもらったりしています。資格の勉強方法や仕事の進め方など刺激を受けることが多く、モチベーションの維持にもつながっていると思います。

**福井さん:** 先輩とは年齢差がありますが、なじめる雰囲気を作ってくださっていると思います。その雰囲気のおかげで、のびのびと働かせてもらっています。

**宮谷さん:** 面倒見の良い先輩が多い所です。会社から業務用の携帯電話が貸与されるため、物理的な距離があっても年齢

関係なく相談しやすい環境です。例えば長野にいる先輩が車を出して遊びに連れて行ってくださったりもしました。若手を気にかけてくれてサポートしてくれる先輩が多いため、色々なことにチャレンジしやすい環境です。

## 一後輩へのアドバイスを一言。

**都竹さん:** 勉強や部活、アルバイトや遊びなど学生のうちにしかできないことを精一杯楽しみ、色々な体験をしていただきたいです。そうして得た経験や人とのつながりは将来思わぬところで役立つたり、自信にもなると思います。

**福井さん:** 就職してからの話ですが、行き詰まった時のために、相談できる人を見つけておきましょう。また辞めたくなくても、入社した時のやる気が少しでも残っていたら、それを信じてみるというのも選択肢だと思います。今は、学生時代の友人が励ましてくれたり、出かける計画を立ててくれたりや友人に支えてもらって頑張れています。学生時代の思い出も励みになることがあるので、たくさん思い出を作っておいてください。

**宮谷さん:** 残された学生生活を後悔がないよう思いっきり楽しんでください。就職など人生の転換点はネガティブになりがちなので、なるべくポジティブに考えてほしいです。「大学楽しかったなあ。」と後々自分が誇りに思える思い出を学生時代にどんどん作っておいてください。

## 一内定者から一言。

**須藤さん:** 今日は参加させていただきありがとうございました。先輩方の話を通して、自分が働いた時の想像や、会社の雰囲気を知ることができ、より一層、先輩方と一緒に働きたいと思いました。4月からよろしくお祈りします！

**後藤さん:** 内定後の学生生活や、就職してからのアドバイスなどとても参考になりました。残りの大学生活悔いの残らないようにしたいと思います。ありがとうございました。



■ 活躍する卒業生③

## 偏りを持たず、視野を広げる ことの大切さ

常翔啓光学園中学校・高等学校  
教諭

**石橋 孝成** さん

(2021年3月 文学部地理学科卒業)



私は2021年に地理学科を卒業し、地理教員を目指すために奈良教育大学教職大学院に進みました。今は常翔啓光学園中学校・高等学校で地理総合と公共を教えており、ICTを活用しながら、いかに生徒に考える力を身に付けさせるかを日々試行錯誤しています。

高校生の時は日本史を選択していましたが、地理に興味を持ち奈良大学の地理学科に進学しました。それまで地理は暗記科目だと思っていましたが、大学の地理では数式や化学式を使ったり、地理空間情報を扱ったりすることに驚きました。また歴史や文化は地理的条件のもとに発展してきたということに気づき、地理学の奥深さや面白さに魅了されどんどんのめりこんでいきました。そして、高校の先生と共同で作上げた「地理総合の授業」という本の一節を執筆させていただきました。

学部時代のゼミで学んだ、偏りを持たず、視野を広げることの大切さや、専門の知識の必要性を特に教員になってから強く実感しています。

私の勤める高校では、生徒に一人一台のタブレットを配布し、株式会社帝国書院が販売しているデジタル教材を使って授業を行っています。当初はただ問題集を解くだけのツールでした。しかしこの機能を最大限利用しようと考え、複数の資料を読み取り論述する問題を作るようにしました。ある定期試験の後に、生徒同士の「地理は暗記ではない」という言葉を聞いた時に、自分の教育方法に信念を持って取り組んだ努力が実を結んだと感じました。また、この取り組みは、帝国書院にも評価され、西日本で初めて同社の活用事例集に取り上げられました。

最近では、生徒から日本地理学会の高校生ポスターセッションに出場したいという声上がり、秋季大会への応募準備を進めています。いずれは地理オリンピックに挑戦したいという生徒の夢を叶えるために、これからも自分自身のスキルを上げながら一緒に頑張っていきたいと思っています。

帝国書院の  
サイトは  
こちら



■ クローズアップ①

## 富雄丸山古墳シンポジウム

「日本最大の円墳」として知られる奈良市丸山町の富雄丸山古墳。最近の発掘調査により国内最大の蛇行剣と前例がない盾形の銅鏡が発見され、古墳時代前期の国内手工業生産による最高傑作とされています。この大発見に関して、奈良市と連携して調査にあっている文化財学科の豊島直博教授が「驚きと感動！富雄丸山古墳の発掘」というタイトルで3月19日に基調講演を行いました。また奈良市埋蔵文化財センター長の鐘方正樹氏をお招きし、総合社会学科の正司哲朗教授、中原洪二郎教授、倉光巖教授も参加して、今後の地域振興への活用について多角的に議論するシンポジウムが開催されました。当日は学生による報告コーナーも設けられ、地域住民の方を含む100人を超える方が参加されました。



■ クローズアップ②

## 学業表彰



新2年生30名に「令和4年度奈良大学1年次学業表彰」が授与されました。これは1年生時の年度中の学業成績等において優れた成績を修め、各学科より5名ずつ推薦された学生たちに送られることになったものです。

2023年度(令和5年度)からはこれに加えて「奈良大学2年次学業表彰」「奈良大学3年次学業表彰」も行う予定になっています。



文化財学科の表彰状授与式の様子 左から3人目は千田教授

### 令和4年度 奈良大学 1年次学業表彰 推薦者リスト

文学部	国文学科	長屋 百花	文学部	文化財学科	青木 ふみ
		岩井 佑奈			新田 涼馬
		元久 真緒			進藤 久慈
		岩田 千治			米橋 咲
		善明 瑞葵			中川 歩美
	史学科	荒木 かなう	社会学部	心理学科	田上 真衣
		阪田 祐希			鳶田 銀一郎
		竹内 翼			山村 陽平
		細川 海音			西本 穂奈
		米川 慧			泉岡 稜青
	地理学科	牧 晃太郎	社会学部	総合社会学科	藤下 幸
		小峠 輪空			多田 喜一
前田 泰平		藤本 ちひろ			
浦谷 翠		山根 遼斗			
		笠松 直斗			上田 秀信



3月 March

20日 令和4年度学位記授与式

令和4年度の奈良大学卒業証書・学位記授与式及び大学院学位記授与式が行われました。3年ぶりの対面実施となり、華やかな晴れ着に身を包んだ卒業生が笑顔で巣立っていきました。



22日 学生担当主催 支援イベント

円安や国際情勢の波乱による物価高騰が続く中、学生支援センター学生担当主催の支援イベントが3月22日(水)、23日(木)に開催されました。このイベントでは、下宿生をはじめとした本学学生を対象に食料品の配布が行われました。

学生ラウンジを会場に、学生自治

会・体育会・文化会・青垣祭実行委員会の役員を務める学生有志と職員が協力し、レトルト食品や2kgのお米などが詰められた袋が550名の学生に手渡されました。



4月 April

2日 令和5年度入学式



令和5年度の奈良大学・奈良大学大学院入学式が行われました。今年度はコロナ禍以降初めての講堂での開催となり、新入生と保護者が一堂に会しての入学式となりました。今津節生学長

による入学式宣言と祝辞を聞いた新入生は、各学科の教室に分かれ少し緊張した面持ちでしたが、新しい大学生活にむけての希望に満ちた第一歩を踏み出しました。



23日 シンポジウム開催



シンポジウム「女性活躍のこれから—能楽世界の小野小町からのメッセージ」が開催されました。歴史上活躍した女性について専門分野から考察すると同時に、現代社会の女性をめぐる状況とこれからの多角的に探究するという、奈良大学ならではの企画です。今後シリーズ化していく第一弾となる今回は、昨年12月に包括連携協定を締結した奈良市議会との連携事業として開催されました。奈良市議会の下村千恵議員をゲストにお迎えし、三宅晶子教授(国文学科)とコーディネーターである島本太香子副学長(総合社会学科教授)、そして総合社会学科2年生の田中李音さんと藤本ちひろさんによる活発

な意見交換が行われ、学科の枠を超えた“クロスオーバー”企画となりました。

また、この2名の女子学生は社会学や社会調査学の学びを生かし、性別役割分担に関する意識調査の成果を発表しました。藤本さんは「私たち学生の意見を発表できたことはとても貴重な経験でした。今回の発表は活動のスタートなので、これからも積極的に状況を学び、アイデアを発信していきたいと思います」と笑顔で話していました。



5月 May

3日 天平祭



奈良県、奈良市主催『平城京天平祭』が5月3日から5日、平城宮跡で開催されました。初日には、雅楽の音色に合わせ、奈良時代の天皇や貴族などに扮して鮮やかな衣装に身を包んだ約260人が、公園内の朱雀大路を練り歩くイベント「平城京天平行列」があり、本学の今津学長と学生たちが参加しました。

学生からは「今回のイベントに参加して奈良時代の行事の様子を追体験でき、非常に良い経験となった」や、「幼いころから興味があった日本の伝統衣装を着るという貴重な経験ができた」との声が聞かれました。



19日 奈良市議会との意見交換会

本学の学生15名含む市内の大学生35名が奈良市議会議員と意見交換を行う議会報告会が奈良市役所内の奈良市議会で開催されました。議場見学と市議会の制度説明の後に意見交換の場が設けられ、複数のグループに分かれ「将来住みたい自治体」「女性の就業率

向上」「若者の投票率向上」などのテーマで市議会議員や他大学の学生と活発に議論を行いました。

参加者の政治や社会への関心は高まり、社会学部総合社会学科1年生の大上加恋さんからは「議員の方と親しくお話をして、政治に対するイメージが大きく変わりました。今回のような機会があればこれからも参加したいです」また、史学科3年長野晃久さんからは「私のようないち大学生の意見を市議会に伝える機会となっており、自分も政治に参加していると実感できています。議員の方の奈良市への想いを聞く機会も設けられていて、有意義な時間を過ごすことができました」との意欲的な感想が聞かれました。





## 皆さんのサポートもあり心強く 安心して学んでいけそうです。

在学 松本 裕子さん



当時学生だった娘たちの学生生活に、うらやましさと自分も学びたい気持ちがあり、2019年4月に3年次編入学しました。大げさに聞こえるかもしれませんが、2度目の学生生活は真剣に学問と取り組み、学ぶ喜びを感じることができ、世界が広がったことが一番の収穫です。

入学のきっかけは居住する市の歴史読書会に参加し、歴史を学び直したいと感じたときに会長さんや参加者たちが奈良大学通信教育部出身であったことでした。大学での学び方や学習の進め方などを教えてください、気持ちが一気に入学へと向かいました。

早速、入学を決め、教科書が届くといきなり専門科目の分厚いテキストに戸惑い、通信教育部事務室窓口へどのように学習を進めればいいのか？と泣きつきましたら、とても親切に「取り組みやすそうな科目から進めてください」と言われ、学習を始めました。しかし、義理の父母の看病や介護、葬儀などでなかなか思うように進まずでした。考古学概論、美術史概論は教科書とサブテキストを読んでレポートに一年かけて取り組みました。コロナ禍より前に入学したので、夏期スクーリングはどうか参加できました。

「文化財修復学」山内先生の講義と実習は初めて知ることばかりで聞き漏らすことがないように必死でした。最後の試験をドキドキしながら受けたことが思い出です。「文化財学講義Ⅱ」深澤先生の講義では、当時の藤原京や平城京に立っているかのような臨場感のあるもので感動しました。「文化財学演習Ⅰ」豊島先生の講義は、古墳の発掘についての話など楽しかったです。最終日にはポスター発表があって、一人ずつ先生からのアドバイスをいただき、卒業論文を執筆する上で参考になっています。コロナ禍では在宅特別スクーリングとなり、残念ではありましたが、逆にYouTubeでの授業は繰り返し見ることによって学習が定着できるというメリットもありました。

まだ少し単位が残っている状態ですが、卒業論文の準備に取り掛かっています。計画書の段階で、すでに壁にぶち当たり困難が予想されてはいますが、困難にめげず楽しみながら取り組み、その先に提出ができれば上出来と自分に言い聞かせながら頑張っています。困ったときには通信教育部事務室の皆さんが全力でサポートして下さいますから、心強く安心して学んでいけそうです。



## 通信教育部生 便り

### フィールドワーク中心の授業は 視野を大いに広げてくれました

卒業生 貝賀 博さん



ある日のわが家の夫婦の会話から・・・私「温泉でも一泊で行かない？伊香保温泉どう？」妻「伊香保ってどこよ？」群馬県！「やっぱり！古墳目的じゃない！ひとりで行って！」

現在、愛車に資料を積み、ひとりで関東近辺の古墳巡りを続けています。もちろん、夜は温泉泊りとビールです。時には、九州などに遠征もしています。家にいる時は、家事をしながら古墳時代中心に論文を読んだり資料をみたり、現在他大学に在籍し、再び卒論にも取組中です。

奈良大学に入学を決めたのは、会社員で関西に在住していた時に、奈良大学で実施された文化財関連の講演会に参加し、きれいな校舎と通信教育に力を入れていることを知ったことです。定年退職が近づいており、好きだった古代史の勉強を本格的にやる方法を模索しながらも、通信教育とはいえ大学に入学すること、関西の家から東京の自宅に帰ること、労力・費用・独学など不安でいっぱいでした。結局、考古学の権威で人気者の亡き水野正好先生所縁の大学だったことにも背中を押され、入学説明会に参加し、目をつぶって入学書類を送りました。でもこの選択と決断は、正解でした。

テキスト科目は、毎日ほんの少しでも継続し、少しずつ仕上げていくことを目標にしました。1日だけなら良いのですが2日勉強を休んだら、もう戻れないと覚悟を決めて取り組みました。ただ、ほとんどの科目でテキストの内容が面白く、例えば概論の5科目は特に充実しており、美術史概論のおかげで予期せず仏像マニアになりました。スクーリングでは、仲間と情報交換し時には酒を酌み交わしたことも、醍醐味でしょう。先生方のフィールドワーク中心の授業は比類なきもので、視野を大いに広げてくれました。例えば、土平先生の歴史地理学は、巧みな授業進行ですっかりはまり、現在も考古学と並んで地理学を学ぶきっかけになりました。

コロナの妨害もありましたが、大学2年、博物館学芸員資格課程3年の計5年もお世話になった奈良大学の卒業生であることを今も誇りに思って勉強を続けています。

## オープンキャンパス・入試日程

### 高校生 & 受験予定者対象 オープンキャンパス 日程一覧

開催日	時間	内容
7/9(日)・7/30(日)・8/27(日)・9/17(日)・2024/3/20(水・祝)	9:30~15:00	体験講義、学科相談、クラブ活動見学、入試相談などを予定

## 2024年度入試 日程等

奈良大学 入試情報サイト



試験制度	出願期間	試験日	合格発表日	概要
AO 入試(第1回)	エントリー締切:9/26(火)	10/21(土)	10/31(火)	学科により、出願資格や試験内容が異なる(文化財は第1回のみ。エントリー締切:9/20(水))
AO 入試(第2回)	エントリー締切:11/22(水)	12/16(土)	12/23(土)	
AO 入試(第3回)	エントリー締切:2/29(木)	3/20(水・祝)	3/22(金)	
指定校制推薦	10/18(水)~10/30(月)	11/11(土)	11/25(土)	口頭試問と提出書類等で判定
校友特別推薦				口頭試問と小論文で判定
専門高校・専門学科・総合学科対象入試				科目試験または小論文で判定 両方の受験も可
地域貢献入試				小論文で判定
芸術入試	10/18(水)~11/5(日)	11/16(木)	11/17(金)	受験・判定ともに3科目
学校推薦型選抜前期		受験3科目、判定は高得点2科目		
学校推薦型選抜後期	11/24(金)~12/6(水)	12/16(土)	12/23(土)	受験・判定ともに2科目
一般選抜S日程	12/25(月)~1/15(月)	1/25(木)	2/3(土)	学科が指定する科目のうち高得点3科目で判定
一般選抜A日程	12/25(月)~1/15(月)	1/26(金)	2/3(土)	学科が指定する科目のうち高得点2科目で判定
一般選抜B日程	12/25(月)~2/14(水)	2/23(金・祝)	2/29(木)	
一般選抜C日程	2/15(木)~3/5(火)	3/13(水)	3/16(土)	
共通テスト利用A日程	12/25(月)~2/1(木)	個別試験なし	2/11(日)	
共通テスト利用B日程	1/30(火)~2/18(日)	個別試験なし	2/29(木)	
共通テスト利用C日程	2/15(木)~3/5(火)	個別試験なし	3/16(土)	



## ■ インフォメーション

### ■ 創設者・薮内敬治郎先生の命日墓参

学校法人奈良大学の創設者である薮内敬治郎先生の命日にあたる4月21日(金)に、浅川正美理事長、今津節生学長、法人役員らが薮内先生のお墓参りをしました。この墓参りは1981年より毎年、薮内先生のご遺徳を偲んで行われています。



### ■ 第17回「全国高校生歴史フォーラム」告知



第16回全国高校生歴史フォーラムの様子

本学と奈良県が主催する「全国高校生歴史フォーラム」では、全国の高校生を対象に、地域の歴史や文化、地理、文化財、文学、人物、社会などに関する研究レポートを募集します。

応募締切は9月6日(水)です。審査結果は10月13日(金)に全国高校生歴史フォーラムサイト(奈良大学ホームページ内)等で発表します。詳細は全国高校生歴史フォーラムホームページをご確認ください。お問い合わせは、全国高校生歴史フォーラム実行委員会(奈良大学内0742-41-9588)まで。

全国高校生歴史フォーラムホームページ  
<https://www.nara-u.ac.jp/forum/>



### ■ 近刊紹介 ～本学教員の著書～

◆奈良大ブックレット11  
タイトル:文化財学入門  
文学部文化財学科  
ナカニシヤ出版 2023年3月刊行

- 第1章 文化財学 事始め  
—文化財学と奈良大学文化財学科—  
准教授 相原 嘉之 著
- 第2章 考古学の研究成果を展示する  
—奈良大学博物館令和四年度企画展の軌跡—  
教授 小林 青樹 著
- 第3章 学生たちとおこなう地方に残る文化財の保存科学的調査  
教授 魚島 純一 著
- 第4章 3Dデータを活用した文化財の研究・展示・教育  
教授 今津 節生 著
- 第5章 文化財の保存修復と科学調査  
—X線CTスキャナと遺伝子解析による健康診断—  
准教授 杉山 智昭 著
- 第6章 文化財学科の美術史学  
教授 原口 志津子 著
- 第7章 盗まれる仏像—その背景と現状—  
准教授 大河内 智之 著
- 第8章 文献史料から文化財の素性を解き明かす  
—国宝金銅灌頂幡を製作させた人物—  
教授 吉川 敏子 著
- 第9章 文化財防災を大学で学ぶこと  
教授 岡田 健 著



奈良大ブックレットは1年に1冊、本学の複数名の教員が一つのテーマに基づき執筆されており、今回は11冊目となります。今回の奈良大ブックレットでは、文化財学科の各教員の専門分野における研究の一端が紹介されています。



ブックレット1~10

#### ◆貝の疑問50

文学部地理学科 教授 岩崎敬二 共編著  
成山堂書店 2023年刊行

#### ◆満鉄輸送史の研究

文学部地理学科 教授 三木理史 著  
塙書房 2023年刊行

### ■ 博物館企画展示

6月5日(月)～7月28日(金)の期間に奈良大学博物館  
令和5年度企画展『板木と版本—藤井文政堂旧蔵の版木から—』を開催します。

京都の藤井文政堂より442枚におよぶ板木が奈良大学へ寄贈されたことを機会として、実際にその中に含まれる板木を用いて印刷されたと考えられる版本について、奈良大学図書館が所蔵する古典籍本とともに紹介します。

これまでは版本に関する研究が中心でしたが、これらの板木の研究を通して、板木そのものに残る多様な情報によって、版本の発行に関する時間的な経過、人びとのかかわり方などがより具体的に解明されるようになりました。そして、442枚の板木が寄贈されたこの機会に、改めて“現在の私たちでできること”を模索し、今後の研究のためにこれらの資料をぜひ在学生はじめ多くの方々に知っていただきたいと企画しました。



### 附属高等学校

#### 「ミライアートフェスティバル」に参加

5月3日(水・祝)～7日(日)、奈良ファミリー×奈良の学生によるコラボイベント第2弾『ミライアートフェスティバル vol.2 Green & Flower』が開催され、本校から茶華道部と三味線部が参加しました。

県内の4校が参加したこのイベントでは、奈良ファミリー専門店街zoro 1Fラクダ広場を会場に茶華道部が「奈良の未来・わたしたちの未来」をテーマにオリジナルの生花作品を展示、三味線部がミニコンサートを行いました。参加したそれぞれのクラブの生徒たちは、「生花をしている姿を見てもらうのは初めてで、緊張したが、お客さんの声を直接聞くことができてとても勉強になった」「生花作品をバックに自分たちも演奏を楽しむことができた。緊張したが良い経験になった」と話していました。



### 附属幼稚園

#### 入園式

4月11日、心地良い春風とともに花々が咲き揃い園庭が春色に染まったこの日、ちょっぴり大きな制服に身を包み、ドキドキしながら45人のお友だちが奈良大学附属幼稚園に入園しました。笑顔の先生に迎えられ、恥ずかしそうな子ども達でしたが「おはようございます!」と勇気を出してご挨拶ができました。

式が始まり、椅子に座って園長先生のお話を聞いたり、ちゅうりっぷのお歌に合わせて手遊びをするなど、和やかなムードで行うことができました。年長児は代表の数名が舞台上がってお祝いの言葉を述べました。緊張しながらも役目をしっかり果たし頼もしい姿を見せてくれました。ひとつひとつの成長を楽しみに新しい1年の始まりです!

